

平成 28 年度  
事業計画書

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団

平成 28 年 3 月

# 平成 28 年度事業計画書

## 事業計画

### 1. 事業方針

平成 28 年度は、次の方針の下に各事業を推進する。

#### (1) ガバナンス改善の継続

平成 26 年～27 年度にかけて取り組んできた財団のガバナンス改善を継続する。  
平成 27 年度から発足した内部統制委員会による諮問、監査法人による監査を踏まえ、引き続き改善に努める。

平成 28 年度は、財団の管理・運営について定めた諸規程の見直しを順次進める。

#### (2) 「アド・ミュージアム東京」のリニューアルについて

平成 27 年 11 月の第 14 回臨時理事会で承認を受けた「アド・ミュージアム東京」の平成 29 年 12 月のリニューアルオープンに向けて、平成 28 年度は基本計画の策定と実施設計を進める。

#### (3) 公益事業 1 および公益事業 2 について

公益事業については、これまで同様基本となる活動は継続していくが、活動内容を精査し、効率化と質的向上に努める。

公益事業 1 については、活動の基本となる一般研究助成、出版助成、事業助成、褒賞、調査研究および研究広報誌「アド・スタディーズ」の発行を行う。一般研究助成は平成 28 年度に 50 回目の節目を迎えるため「アド・スタディーズ」で特集を行う。

公益事業 2 については、「アド・ミュージアム東京」のリニューアルに向けて準備を行うとともに、平成 27 年度に策定したブランド・ステートメントを踏まえ、

「アド・ミュージアム東京」の MLA (Museum, Library and Archives) 施設として魅

力を高めるための活動を推進する。平成 28 年度は、「アド・ミュージアム東京」のオリジナル企画による特別企画展を実施する。

(4) 新アーカイブ構築事業について（共通事業）

当財団の現アーカイブシステム AdDAS の老朽化対策としてスタートした新アーカイブ構築事業は、平成 26 年度中にパイロットシステムの開発が終了し、平成 27 年度は実用化に向けてシステム改善を行った。平成 28 年度は、「アド・ミュージアム東京」での稼働を開始するとともに、教育・研究での利活用方法を開発するために、引き続き東京大学吉見俊哉教授に委託し、教育利用の実験を行う。

## 2. 公益事業1 事業計画

公益事業1は、広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーションに関連する分野の研究助成事業及び褒賞・調査研究・情報提供を行う。

### (1) 研究助成

#### ① 一般研究助成

平成28年度第50次研究助成は、平成28年1月8日に締め切ったところ、常勤研究者・大学院生合わせて41件の応募（うち指定課題14件、継続研究18件）があった。平成28年2月24日の選考委員会で審査した結果、11件（常勤研究者5件、大学院生6件）の研究が選出された（別表1）。

なお、平成27年度からの継続研究を含めた平成28年度の助成件数は、常勤研究者の部8件、大学院生の部6件である。

#### 【応募件数】（ ）内は平成27年度

常勤研究者の部	27 件	(33件)	大学院生の部	14件	(16件)
うち指定課題	9件		うち指定課題	5件	
継続研究	18件		継続研究	0件	

#### 【採択件数】（ ）内は平成27年度

常勤研究者の部	5件	(5件)	大学院生の部	6件	(7件)
単年度研究	2件		単年度研究	6件	
継続研究	3件		継続研究	0件	
[うち指定課題	2件]		[うち指定課題	4件]	

#### ○平成28年度の指定課題

課題1 消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究

課題2 広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究に応用可能な他領域における  
関連研究

課題3 博物館学、展示学、アーカイブ学の視点による広告資料活用の研究

本年3月に提出された平成27年度研究成果については選考委員の出席を得て成果報告会を実施する(4月)。また、2年間にわたる継続研究について初年度終了時に中間報告会を行い、継続の可否を選考委員に判断いただく(来年3月)。

(別表1)

平成28年度 第50次 研究助成内定者一覧表

[常勤研究者の部] (50音順)

継続研究は初年度金額を記載

代表者氏名	大学・学部	職位	研究テーマ
【単年度研究】 【指定研究①】 青木慶	大阪女学院大学 国際・英語学部	専任講師	アンバサダーを介した、ブランド体験価値の共創に関する研究
【継続研究】 瓜生原葉子 他1名	同志社大学 商学部	准教授	ソーシャルマーケティングによる移植医療の課題解決 ～臓器提供意思表示率の向上～
【単年度研究】 【指定研究②】 川畑秀明	慶應義塾大学 文学部	准教授	脳は信号情報を基に広告の見方、感じ方を評価する
【継続研究】 鈴木和宏 他4名	小樽商科大学 商学部	准教授	時間軸とThird Partyを組み込んだブランド・インキュベータ・コミュニケーション・モデルの構築と分析
【継続研究】 西本章宏 他1名	関西学院大学 商学部	准教授	マーケティング・コミュニケーションのビッグデータ分析による新市場創造戦略
			計5件

[大学院生の部] (50 音順)

氏名	大学・学部	課程	研究テーマ
【単年度研究】 【指定研究②】 朝岡孝平	一橋大学大学院 商学研究科	博士後 期課程	製品カテゴリーの社会的形成におけるラ ベルとコミュニケーションの役割 ～渋谷系音楽を事例として～
【単年度研究】 【指定研究②】 織田由美子	一橋大学大学院 商学研究科	博士後 期課程	価値転換と市場創造 ～「結婚情報サービス業界」のイメージ 転換に関する経済社会学的研究～
【単年度研究】 【指定研究①】 洪瀬雅彦	法政大学大学院 経営学研究科	博士後 期課程	クロスメディア環境下におけるオンライ ンビデオ広告の効果に関する研究
【単年度研究】 武谷慧悟	早稲田大学大学院 商学研究科	博士後 期課程	サービス・リカバリーの経験がフロント ライン従業員自身に及ぼす影響
【単年度研究】 地頭所里紗	神戸大学大学院 経営学研究科	博士後 期課程	エスニックフードの受容におけるフー ド・ネオフォビア緩和のための探索的研 究
【単年度研究】 【指定課題②】 横山智哉	一橋大学大学院 社会学研究科	博士後 期課程	ソーシャルメディアを活用した選挙キャ ンペーンが有権者の投票参加に及ぼす効 果
			計 6 件

② 出版助成

広告・マーケティング分野における優れた書籍に対し出版経費を補助する。4月と9月の年2回公募を行い、査読審査を経て2件程度を採択予定。

③ 事業助成

広告・マーケティング関連の団体が実施する学術・研究的事業を助成する。平成27年度に実施した事業助成の内容を精査し、平成28年度においては以下の5つの団体事業に助成を行う。

- ・日本広告学会全国大会（日本広告学会）
- ・クリエイティブフォーラム（日本広告学会）
- ・全広連夏期広告大学（全日本広告連盟）
- ・全広連秋のシンポジウム（全日本広告連盟）
- ・ヤング・ディレクターズ・セッション（日本アド・コンテンツ制作社連盟[JAC]）

## （2）褒 賞

### 「助成研究吉田秀雄賞」

平成 27 年度に助成した一般研究助成の成果を評価し、第 14 回「助成研究吉田秀雄賞」として褒賞する。予備審査および本審査を経て、吉田秀雄賞、準吉田秀雄賞、奨励賞の各賞を選出する。贈賞式は、11 月に開催予定。

## （3）調 査（オムニバス調査）

研究支援の一環として、一般研究助成対象者が参加できるオムニバス形式の消費者標本調査（首都 30km 圏、一般男女個人 750 名）を実施する。本調査は、対象者属性等の共通項目に加え、助成対象者から提出される質問と財団独自の質問から成る。財団独自の質問では、時系列変化を把握する項目や時事的な項目を盛り込み、消費者と社会の動向について継続的な観察を行う。

調査結果データは当財団ホームページ上で公開の上、一般研究者の利用に供する。また、調査データを使用した分析レポートを研究広報誌「アド・スタディーズ」に発表する。

## （4）情報提供

### ①研究広報誌「アド・スタディーズ」

広告・マーケティング領域の研究広報誌「アド・スタディーズ」を年 4 回発行する。研究助成事業や「アド・ミュージアム東京」など当財団の活動を紹介する広報誌としての役割を担うほか、研究者と実務家、双方の知見交流の場として知的刺激を提供することを目指す。

発行部数は各号約 1,900 部（非売品）。研究者、助成対象者、広告関係団体、企業、プレス等に配布する。バックナンバーは財団ホームページ上で公開を行う。また、対談記事をウェブ版電通報に掲載し、広く紹介するとともに、平成 27 年度から開始した特集記事の一部英訳とホームページ公開を継続する。

## ②吉田秀雄記念事業財団ホームページ

研究助成関連事業、オムニバス消費者調査、研究広報誌「アド・スタディーズ」など当財団が蓄積してきた資料・情報を掲載する。

### 3. 公益事業2 事業計画

公益事業2は、広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーションに関連する分野の資料収集・保存・公開による啓発事業を行う。

平成28年度は引き続き、「アド・ミュージアム東京」が有する3つの機能：Museum機能（企画・展示部門）、Library機能（広告図書館）、Archives機能（資料室）の一体的な活動を行う。

「アド・ミュージアム東京」は開館以来13年が経過したが、平成27年1～12月の年間来館者数は75,941人（開館日数200日、1日平均379人）であった。

平成28年度は、これまでの実績を踏まえ、新たに独自の企画展を行う。それに伴い、例年実施してきた広告賞展を一部改編する。

#### (1) Museum（企画・展示部門）

##### ① M L A連携による展示コンテンツの理解促進と発信

平成27年度は、企画展示情報の多言語化対応や常設展示の解説ガイド制作など、外国人を含めた幅広い世代の来館者に向けた展示コンテンツの理解促進および発信に努めた。平成28年度も、来館者視点に立ち、M L A連携により資料価値を魅力的に訴求する展示ガイドの制作や広報活動を継続する。

##### ② 企画展の改編

平成28年度は、国内および海外の広告賞など年間6回（7企画）の企画展を開催する。  
(別表2)

今年度の独自の企画展として、世界と日本の広告からアドバタイジング・フォー・グッドに焦点をあてた「世界を幸せにする広告 GOOD Ideas for GOOD」を開催し、類似の広告賞展であるクリエイティブトップナウ展は休止する。

##### ③ カレッタ汐留との連携

平成27年度は、クリスマスシーズンにあわせたCMの上映と開館時間の延長を実施し

多くの来館者を得ることができた。平成 28 年度も、カレッタ汐留クリスマスイベントと連携し、ミニ企画や開館時間延長等の集客に繋がる活動を実施する。

(別表 2)

「アド・ミュージアム東京」平成 28 年度 企画展スケジュール(予定)

	企画展名	期間	日数	備考
1	世界を幸せにする広告 GOOD Ideas for GOOD	5/17(火) ～7/30(土)	55	世界の広告業界の潮流を紹介する特別展として過去 5 年間の世界と日本の広告から、社会課題に取り組む「Advertising for GOOD」に焦点をあて作品を紹介する。トークショーやイベントも開催予定。
2	TCC 広告賞展 2016	8/4(木) ～10/1(土)	43	広告コピーの視点から優れた広告を選出する広告賞(主催:東京コピーライターズクラブ)。2016 年の受賞作品を展示。
3	第 69 回 広告電通賞展	11/1(火) ～11/26(土)	20	あらゆる広告媒体を網羅した日本で最も歴史ある総合広告賞(主催:広告電通賞審議会)。2016 年の受賞作品を展示。
4	D&AD 賞展 2016	12/1(木) ～2017/1/14(土)	28	英国・ロンドンで開催され、あらゆる分野のクリエイティブ作品を顕彰する国際賞(主催:D&AD)。2016 年の受賞作品を展示。
5	One Show 展 2016	1/19(木) ～2/18(土)	23	米国・ニューヨークで開催されるカンヌ、D&AD と並ぶ世界三大広告賞(主催:ワンクラブ)。2016 年の受賞作品を展示。
6	第 59 回 日本雑誌広告賞展	2/23(木) ～4/1(土)	28	日本で唯一の雑誌広告に特化した歴史ある広告賞(主催:日本雑誌広告協会)。2016 年の受賞作品を展示。
7	第 55 回 JAA 広告賞 消費者が選んだ 広告コンクール			消費者の視点で優れた広告を選出する広告賞(主催:日本アドバタイザーズ協会)。2016 年の受賞作品を展示。

(2)Library (広告図書館)

平成 27 年度は開館から 50 周年の節目を迎え、基本業務となる広告・マーケティング関連分野の研究者支援、所蔵資料の充実・公開・情報提供に努めるとともに、財団各部門が管理する図書

資料の統合的管理を進めた。平成 28 年度もこれら基本業務の充実を中心に、稼働を開始する新アーカイブシステムと図書館データベースとの横断的な情報提供を推進しつつ、MLA連携を強化する。

また、「アド・スタディーズ」の図書資料紹介、「アド・ミュージアム東京」で開催する展示との連動や独自テーマで行う図書展示コーナーを通じて、引き続き来館者への情報発信の強化も行う。国立国会図書館レファレンス協同データベース事業には、平成 28 年度も参加する。

●所蔵資料数

(平成 28 年 1 月末現在)

	和書	洋書	計
図書	16,287 点	3,798 点	20,085 点
助成研究論文	970 点		970 点
視聴覚資料 (DVD)	363 点	384 点	747 点
雑誌(廃刊・中止含む)	167 タイトル (5,281 点)	31 タイトル (942 点)	198 タイトル (6,223 点)
雑誌記事索引 登録総本数	60,419 本		

(3) Archives (資料室)

平成 27 年度は、受入資料の登録など基本業務と並行し、新アーカイブシステム構築の一環として、収蔵資料のメタデータ見直しと整備を進めた。また、定期的に勉強会を開き、収集経緯・資料の内容・課題を明らかにすることで改めて管理方針をまとめた。平成 28 年度は新アーカイブシステム稼働に伴い資料登録の円滑な推進のための体制を新たに構築する。また未整理資料の精査、メタデータの収集を積極的に行い、収蔵資料に関する情報の充実を図る。

(4) 広報活動

平成 27 年度は「アド・ミュージアム東京」のブランド・ステートメントを策定した。それに合わせ、ホームページの改訂、館外ポスター、館内装飾、フロアスタッフのユニフォームの刷新を実施し、わかりやすく親しみやすいイメージづくりを行った。平成 28 年度は、引き続き関係性を築いてきたテレビ、新聞、雑誌のほか、WEB や SNS を最大限活用する。効果的な情報発信により「アド・ミュージアム東京」の認知向上を図り、来館者増を目指す。

#### 4. 新アーカイブ構築事業 事業計画

平成 26 年度は、新アーカイブの基本設計に基づき、パイロット版システムを作成し、権利処理について「権利処理ガイドライン」を作成した。

平成 27 年度は、このパイロット版システムを基に、実用化に向けて様々なシステム改善を行ってきた。また、新アーカイブの教育・研究での利用に向けて検討を開始した。

平成 28 年度は、この成果を踏まえ、以下のように本事業を進める。

##### (1) 新アーカイブシステムの「アド・ミュージアム東京」内での稼働開始

①旧 AdDAS データの完全移管

②資料検索の運用開始

##### (2) 新アーカイブの教育・研究での利活用実験の開始

①東京大学吉見俊哉教授に委託し、実際に大学において教育・研究での利用実験を開始

#### 5. 「アド・ミュージアム東京」リニューアル 事業計画

平成 29 年 12 月の「アド・ミュージアム東京」のリニューアルに向け、平成 27 年度は基本構想の策定を進めてきた。この基本構想を踏まえ、平成 28 年度は、基本計画の策定と実施設計を進める。